

子供を悪くする二つの方法など

盛岡市教育委員会教育研究所

教育相談員 野口 晃男

子供を良くする方法は沢山ありますが、ここでは、まず、子供を悪くする方法を三つ紹介しましょう。

一つ目の方法は、子供の前で親が近所の人に挨拶をしないという方法です。

近所の人だけではなく、知っている人にも挨拶をしないようにするのがです。

そうすれば、子供は間違はなく陰気で礼儀知らずの人間に近づいていきます。

二つ目の方法は、家の前で手伝いをさせないという方法です。

家のみんなが働いているのに、遊んでいても平気でいられるようにするので

そうすれば、子供は学校でもそうしますから、そのうちに多くの友達からの信用を失い、最後にはひとりぼっちになってしまいます。

掃除をさせないのがこの場合の一般的な方法です。

三つ目は、子供の頭を悪くさせる方法です。

それは、子供の前で、友達の前で、近所の人への悪口や、先生の悪口を言うことです。

この方法が効果的である理由は、とてもはっきりしています。

お父さんやお母さんが悪く言っている人の話は、どんなに素晴らしい話でも、その子の心には響かないのです。

さて次に、子供との会話の仕方について、小学校一年生を例にとつて考えて見ましょう。

学校から帰宅した子供に、次のような質問は良くありません。

「学校たのしかった？」
これは具体性がありません

ん。子供にとっては答えにくい質問になっています。

それよりは、「今日は誰とあそんだの？」の方が数段答えやすい質問になっています。

誰とどんな遊びをしたかが分かれば、楽しかっただろうと想像が付きまします。

それが、たとえ〇〇ちゃんとかけんかした話であつたとしても、親は、小さい頃の自分と重ねて、「ああ、思い通りにならないことにつかる経験をしてきたんだ



野口晃男氏
プロフィール

●昭和43年 二戸市立福岡小学校教諭 ●昭和50年盛岡市立仁王小学校教諭 ●昭和61年県立教育センター研究員 ●昭和63年県立総合教育センター研修主事 ●昭和64年和賀町教育委員会指導主事 ●平成2年県教育委員会指導主事 ●平成4年盛岡市立本宮小学校教頭 ●平成7年久慈市立大川目小学校長 ●平成9年紫波町立古館小学校長 ●平成13年盛岡市立太田小学校長 ●平成15年盛岡市立中野小学校長 ●平成17年定年退職 ●現在、盛岡市教育委員会教育研究所教育相談員

な」と納得することができません。

思い通りにならないという経験は、その子の忍耐力をはじめ多くの力を育てます。

この経験を、「いじめ」と勘違いして、その相手との遊びを禁止するのは、その子の成長にとって非常に残念なことと言えます。

「勉強どうだった？」も良い質問ではありません。

それよりは、「国語で勉強したところを読んで聞かせて」とか、「お母さんに、算数の問題を出して頂戴」の方が、もっと楽しい会話となるはずです。

では、子供との会話ではどんなことに注意したらよいのでしょうか。

最も重要なのは、話題への関心の示し方です。

親がどんな話題に関心を示すかで、子供は話題を選ぶようになります。

楽しい話題を喜ぶ親の子は、学校で起こった楽しい出来事をいっぱい記憶し、瞳を輝かせて話すようになります。

「楽しいことを記憶して、話す」と言う行為は、その

子の心の中に「プラス思考」と言う素晴らしい力を育てていくのです。

反対に、いじめにあったとか、先生に冷たく（厳しく）されたとかの話題の時に、いつもより真剣に聞く

ような親だと、子供は自分の受けた被害の部分だけを話すようになります。

親の愛が、自分に注がれるのはどんな話題の時なのかをしっかりと学習しているのです。

そして、多くの楽しいことがあつたにもかかわらず、親が関心を示す不幸の虚像の方を学校から持ち帰るのです。

この繰り返しは、決して子供の幸せにはつながりません。

最後に、「我慢する力」の、ちよつと変わった育て方を紹介しましょう。

子供が自転車欲しいと言いました。

予算もついていたので、早速買ってやりました。

子供は喜ぶでしょうが、これは、とてももったいない話です。

すぐに買い与えるのは、工夫が足りないのです。

自転車売り場を親子で見せたり、カタログを集めさせたり、友達の前で観察させたりと、じっくり検討する時間を保障してやる必要があります。

この検討に費やす時間は、決して無駄な時間ではありません。

「自転車に対する期待が熟していく時間」であり、「喜びに向かっていく大切な大切な時間」でもあるのです。

そして、実は、欲しい物が手に入るまでは「我慢する」という心を育てる大切な時間でもあるのです。

この一見無駄とも言える時間こそ「今の子供達に欠けている何かがある時間」だと私は思っています。

そこで育つ何かは、きっと、一〇年後二〇年後に、お父さんお母さんに何かのかたちで返ってきます。

今必要なことを省略すれば、そのつけは、「少しの努力では取り返しがつかないほどの不幸」というかたちで確実に我が家にやってきます。

「小さな工夫の積み重ね」これを子育てというのです。